コミュニティ・スクール
推進ガイドライン

実践編

望ましい学校運営協議会の進め方　～連携・協力活動の実施に向けて～

・学校運営協議会の、特に「導入期」における進め方やポイントについて、先行校の事例を踏まえながら、具体的に紹介します。コミュニティ・スクールを効果的な取組とするためには、ガイドライン本編 P4 に示す３つのサイクルを回しながら、実践を重ねていくことが大切です。

① 情報の共有
② 育てたい子供の姿や学校ビジョンの共有
③ 学校ビジョンを踏まえた連携・協力活動の実施

Step 1　情報の共有

・学校、保護者、地域が一体となって連携・協力活動を進めるためには、相互理解を深めていかなければなりません。まずは、学校の現状・課題や、神戸市全体の取組（校則の見直し、GIGA スクール、教科担任制の導入等）を積極的にお知らせし、保護者や地域の学校教育に対する関心や意識を高め、目線を合わせて協議していく必要があります。
・ある中学校では、１人１台端末を用いて、学校運営協議会委員にタブレットドリル・デジタルドリルを使用していただき、理解を深めていただく取組を実施しました。その際には、初任の教員４名をサポートにあてるなど、関わる教職員の輪を広げていく工夫も見られました。
・いじめや不登校の状況をはじめ、学校で課題となっている事柄についても、保護者や地域に対し率直に情報共有し、学校としてどのように取り組んでいるのか、ご理解いただくことが信頼関係の構築につながります。
・下記は、小学校が学校運営協議会で実際に情報共有した事例です。学校の現状を正しく認識いただくことが、連携・協力活動の実施に向けた最初の一歩です。
　※学校運営協議会委員は特別職非常勤の地方公務員であり、守秘義務があります。情報共有にあたっては、あらかじめ委員に説明をしてください。

＜情報共有の事例＞

〇学力・学習状況

教育目標
自ら学ぼうとする子

＜全国学力学習状況調査＞
Q「自分で計画を立てて勉強をしていますか？」
→概ね出来ているが、家庭での学習習慣がついていない生徒もいる。がんばりを認めることで、より意欲的に取り組めるようにしていきたい。

〇体力

・男子反復横跳び、女子ソフトボール投げにおいて、全国平均を上回っている。
・その他の種目は全国平均を下回っており、基礎体力の低下が課題。特に走運動について課題があり、走力がつく取組を実施したい。

〇いじめ　令和２年度 **96** 件

いじめの定義
・一定の人的関係
・心理的又は物理的影響
・心身の苦痛

＜いじめの例＞
クラスの友達から消しゴムを取られて嫌だった

〇不登校

※30日以上の欠席
令和２年度 **7** 人
令和３年度 **3** 人

＜不登校の例＞
・学力に対する心配
・生活習慣の乱れ（夜中までゲームをして起きられない）
・人間関係　等
⇒不登校の要因も年々多様化してきている。

○校則

＜委員からの質問＞
通学鞄はどのように決まったのか？もっとオリジナルなものに出来ないのか？

＜学校からの説明＞
機能面と価格を重視している。本校の通学鞄は、有名ブランドバッグと性能は同等である一方、価格は半額以下と安価。

○学校生活

＜アンケート結果の例＞

◆「学校や社会のルールを守っている」
⇒教職員、保護者、生徒とも「あてはまる」が９割超。一方、公園等の過ごし方について地域住民から意見を頂くこともあり、課題が残る。

○虐待

令和２年度 **4** 件

虐待疑い
↓
こども家庭センター

コロナ禍の影響
・収入減や在宅ワーク等が家庭環境に大きな影響
↓
・夫婦関係、親子関係が変化し互いにストレスがたまり暴力行為に

○ネットトラブル

・オンラインゲームで仲間外れにしたり、暴言を吐いたりして友達関係が悪化

・LINEのグループで友達の写真や悪口を拡散する

Step２　育てたい子供の姿、学校ビジョンの共有

・学校づくりの指針に掲げているとおり、「育てたい子供の姿」について、学校運営協議会で議論し共有することにより、保護者や地域の方に当事者意識をもって学校運営に参画いただくことが可能になります。
・そのため、学校ビジョンは、子供たちの今の姿や自校の現状・課題、地域特性等を起点とする「学校づくりの目標」「育てたい子供像」に加え、保護者・地域の願いも踏まえたものとする必要があります。
・下記様式を参考に、各校において、シンプルで伝わりやすい学校ビジョンを作成し、保護者や地域と共有してください。

神戸の教育が目指す人間像
心豊かに たくましく生きる人間

令和○年度 ○○小学校
学校ビジョン

神戸が目指す これからの学校の姿
人がつながり ともに創る みんなの学校

学校づくりの目標（※目指す学校像）
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

育てたい子供の姿（※目指す児童生徒像）
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

・・・する子	・・・する子	・・・する子
○・・・・・・・ ○・・・・・・・ ○・・・・・・・	○・・・・・・・ ○・・・・・・・ ○・・・・・・・	○・・・・・・・ ○・・・・・・・ ○・・・・・・・

保護者・地域の願い

Step 3　学校ビジョンを踏まえた連携・協力活動の実施

・コミュニティ・スクールの「導入期」においては、まずは①情報を共有し学校・保護者・地域の信頼関係を構築すること、②育てたい子供の姿・学校ビジョンを共有し、「何のために連携・協力をするのか」「どんな未来を目指しているのか」、目線を同じくすることが重要です。
・そのうえで、共有した目標（育てたい子供の姿、学校ビジョン）の実現に向けて、誰がいつまでに何をやるのか、学校運営協議会で協議をしてください。
・必ずしも新しい取組を一から始める必要はありません。例えば神戸っ子応援団のノウハウを活かして登下校の見守り活動を行う等、これまで取り組んできた活動をベースに、協力していただいてきた方々と力を合わせ、さらに効果的な取組ができないか、検討してみましょう。
・また、教職員の多忙化や、共働き世帯の増加、地域コミュニティの担い手不足などが課題となるなか、取組ばかりを増やしてしまうと持続可能なものとはなりません。「やめる・減らす・変える」の視点をもって、時には既存の活動を整理・縮小していくことも必要です。
・育てたい子供の姿や学校ビジョンの実現に向けた活動に重点化を図り、学校・保護者・地域の適切な役割分担のもと、できることから、小さく実践していきましょう。
・先行校においては、子供たちの学びと成長を支える取組がスタートしています。実践事例としてまとめていますので、各校の取組を検討するうえで参考としてください。

＜神戸っ子応援団について＞
学校と保護者・地域との連携・協力活動の仕組みとして展開されてきた「神戸っ子応援団」は、令和３年度から所管を市長部局から教育委員会に移し、活動費については、学校運営費に新たに配分したコミュニティ・スクール推進費の中で支出できるように変更を行っています。
長年にわたる活動により、人のつながりや活動ノウハウを蓄積してきた「神戸っ子応援団」は、コミュニティ・スクールを推進するうえで、重要な存在です。
子どもたちの学びや成長を支える活動の具体的な担い手として、引き続きご協力いただけるよう、関係づくりに努めてください。

Step 4　効果的な情報発信

・活動の中には、保護者や地域の一部の方だけが参画し、保護者や地域に活動があまり知られていない場合もあります。
・学校だよりやホームページ等のほか、すぐーるも積極的に活用し、学校運営協議会の協議内容や取組みを保護者や地域に発信しましょう。
・効果的な情報発信により、多くの保護者や地域住民、地域団体等、多様な主体の参画を促進し、協働活動の輪を広げる好循環を生み出しましょう。

実践事例集

CASE 1　新一年生の集団下校見守り活動　（東須磨小学校）

入学した新一年生の集団下校の見守りについて、教員の負担が大きく、学校運営協議会でその実態を共有。解決策を協議した。

取組

・見守り活動を支援してくれる保護者をすぐーるで募るアイデアが出され、実践した。
・20名程の保護者で活動をスタートし、その後は口コミで80名近くに増加。
・協議会委員が日々の参加者の活動スケジュールを管理し、学年の枠を超えて多くの保護者や地域の方が新一年生の下校見守り活動を支援してくれた。

効果

・これまで教員のみで対応していたため、保護者・地域に支援してもらい教員の負担軽減に繋がった。
・学年を超えて、学校全体で子供を見守る活動に繋がった。

CASE 2　NPO法人と連携した学力の向上（多聞の丘小学校）

共働きやひとり親の世帯が多く、児童の学習環境の確保が喫緊の課題であった。学校、保護者、地域ともに大きな問題意識がある、学力の向上をテーマにした。

取組

（１）対応策の議論
・既存の取組として、教員による放課後学習見守りを行っていたが、教員の人手不足や多忙化対策が問題となっていた。
・学校運営協議会委員であるＮＰＯ法人「放課後学習ボランティア支援の会」の理事を中心に、学校運営協議会として地域の方の協力を得ながら放課後学習支援の活動を実施していく方向で協議した。

（２）活動
・ＮＰＯ法人を中心にボランティアを募り、放課後学習支援を実施。
・各クラスの担任が参加する児童を選び、合計で30名程度が参加。
・充実したサポートが可能となるよう、一対一での少人数で実施。

効果

・少人数でのサポートを受けることで、宿題をきちんとやってくる児童や、学習に対して前向きな児童が増えた。
・地域の方にとっても、学校への理解が深まるとともに、子供や学校へのサポートを通じてやりがい・生きがいに繋がった。
・教員が本来の授業準備の時間確保が出来る等、多忙化の緩和につながった。

CASE 3　大学生による不登校支援　（本山中学校）

学校の現状について共有し、年々、増加する不登校生及び個別支援が必要な生徒への支援について、学校運営協議会として取組むこととした。

取組

（１）対応策の議論

a. 不登校生に登校してもらうようにケアする。

→原因が多様かつ相応の知識が必要であり、現実的には難しい。（×）

b. 別室登校、放課後登校に対するケアを充実する。

→（案）ボランティアを活用し、学びの場を提供する。（〇）

c. 不登校のまま、進学に対する不安を解消する。

→（案）不登校生向けの進学説明会を実施する。（〇）

（２）活動

・協議会委員である地元の塾長が中心になり、大学生ボランティアを募集。放課後に、不登校生および参加希望生を対象にした「学びの場」を毎日開催。

・公立、私立の高校を招き、不登校生の保護者を対象とした進学説明会を開催。

効果

・不登校生の中には、この取組をきっかけに、通常学級に登校できた生徒もいた。

・不登校生徒の保護者より、進学説明会に参加することで、進学の選択肢が増え、不安が軽減したとの感想を頂いた。

・学生ボランティアにとっても、後輩のサポートにより教育志望意欲が高まった。

CASE 4　保護者・地域による清掃活動　（向洋小学校）

掃除の時間に教員の目が行き届かず、児童の様子を把握しきれない実態について、学校から説明。清掃活動のサポートをテーマに取り上げた。

取組

（１）対応策の議論

・もともと保護者会の一部の方（１～２年生の保護者）が、掃除の時間に登校し清掃の手伝いを実施していた。この取組を全学年へ展開できないか検討。

・加えて、参加してもらう保護者や地域の方が「お掃除お褒め隊」となり、児童の清掃活動の様子を見て声かけすることで、児童の自己肯定感を上げるアイデアが出された。

（２）活動

・２週間に１回、全学年を対象に、保護者や地域の方に来校してもらい、「お掃除お褒め隊」となって児童と一緒に清掃活動を実施。

効果

・清掃活動をサポートしてもらったことで、教員の負担軽減に繋がった。

・大人から直接声かけをしてもらうことで、児童の自尊心が育まれた。

CASE 5　学校運営協議会の合同開催による小中連携（西神中学校・美賀多台小学校・竹の台小学校）

中学校校区内の３校合同で学校運営協議会を開催。育てたい子供像を保護者・地域と共有し、小中合同での取り組みを展開した。

取組

（１）育てたい子供像の共有と取組みについての協議

・中学校校区内の３校合同で学校運営協議会を開催し、育てたい子供像を保護者・地域と共有の上、各校のグランドデザイン（学校ビジョン）に反映。

・３校の状況を情報交換し、小中連携して行う具体的な取組みについて協議した。

（２）活動

・小中合同で校区の応援団の方、地域・保護者の方々とクリーン作戦を実施。

・広報誌「美竹っ子コミュニティ・スクール新聞」を作成し、３校の取組みを地域や保護者、市内の学校へ発信。

効果

・子供たちにとって、学年・学校の枠を超えて活動する貴重な経験になった。

・地域全体で子供たちの成長を支える雰囲気を醸成することができた。

・地域住民と子供たちが顔見知りになり、あいさつができる関係の構築に繋がった。

CASE 6　学校ボランティアによる行事支援（南五葉小学校）

学校運営協議会において、学校側からの協力要請に応じて学校ボランティアのメンバーで支援することを決定し、実際に校外学習の引率補助などを行った。

取組

（１）学校運営協議会での協議

・学校運営協議会において、学校行事や学校での授業支援など、学校側からの協力要請に応じて、学校運営協議会委員を含む学校ボランティア「みなみっ子お助け隊」で支援することを決定した。

（２）活動

・社会科の校外学習で淡路島へ行くことになり、調理作業の補助や安全確保のため、学校ボランティアから引率補助に行っていただいた。

効果

・調理作業のサポートや校外学習中の子供たちの安全確保をし、学校および教員の負担軽減に繋がった。

・引率いただいた学校ボランティアの方にとって、子供たちの普段の学校生活の様子や学校行事の内容を直接把握できる、良い機会となった。